

24日 金曜

I サムエル

17:1 ペリシテ人は戦いのために軍隊を召集した。ユダのソコに集まり、ソコとアゼカの間にエフェス・ダミムに陣を敷いた。

17:2 一方、サウルとイスラエル人は集まってエラの谷に陣を敷き、ペリシテ人に対する戦いの備えをした。

17:3 ペリシテ人は向かい側の山の上に構え、イスラエル人は手前側の山の上に構えた。その間には谷があった。

17:4 一人の代表戦士が、ペリシテ人の陣営から出て来た。その名はゴリヤテ。ガテの生まれで、その背の高さは六キュビト半。

17:5 頭には青銅のかぶとをかぶり、鱗綴じのよろいを着けていた。胸当ての重さは青銅で五千シェケル。

17:6 足には青銅のすね当てを着け、背には青銅の投げ槍を負っていた。

17:7 槍の柄は機織りの巻き棒のようであり、槍の穂先は鉄で、六百シェケルあった。盾持ちが彼の前を歩いていた。

17:8 ゴリヤテは突っ立って、イスラエル人の陣列に向かって叫んだ。「何のために、おまえらは出て来て、戦いの備えをするのか。おれはペリシテ人、おまえらはサウルの奴隷どもではないか。一人を選んで、おれのところによこせ。」

17:9 おれと戦っておれを殺せるなら、おれたちはおまえらの奴隷になる。だが、おれが勝つてそいつを殺したら、おまえらがおれたちの奴隷になって、おれたちに仕えるのだ。」

17:10 そのペリシテ人は言った。「今日、この日、おれがイスラエルの陣を愚弄してやる。」



一人をよこせ。ひとつ勝負をしようではないか。」

17:11 サウルと全イスラエルは、ペリシテ人のことばを聞き、気をくじかれて非常に恐れた。

ペリシテ人は神の民に敵対するものであり、神のご計画を妨げた民です。それはサタンから来る様々な妨害の型でもあります。つまり私たちはゴリヤテのような敵や問題に直面することがしばしばあるのです。

それは、倒さなければ自分がやられてしまう、難敵であり、避けて通れないものです。しかし自分には倒せない大きな問題であるばかりか、味方の誰にも歯が立たない力です。しかも明らかに勝ち誇り、好戦的です。イスラエル人が「意気消沈し、非常に恐れた」とあるように、戦う意欲さえも失せてしまうようなものです。

どう考えても負けは目に見えているような問題に、どのように立ち向かえば良いのでしょうか。まずはこのダビデとゴリヤテの出来事があらゆる世代で有名であるように、ゴリヤテのような強力な敵が存在することは、特殊なことではなく、よくあり得ることだと知しましょう。普通の出来事なのです。

そして後に主の民が勝利したように、驚くべき結果のお膳立てにしか過ぎないのです。ここに記されたゴリヤテの力の記述は後の勝利のすばらしさを表すものです。

そのような信仰を持ちましょう。信仰の目、神の全能に立って、問題をもう一度見てみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

